幼い難民を考える会

幼い難民に未来を……CYRニュース 第5号

〒150 東京都渋谷区広尾4-3-1 ☎03-499-1226 普通預金口座：第一勧銀広尾057-1280817 郵便振替口座：東京1－36227

いま，保育センターでは

第6期保母養成始まる

9月21日、「希望の家」で養成する保育者の選考風景。定員10名の募集に66名の応募者があり、まさに狭き門となった面接が始まりました。

午前と午後に応募者を分けて、講師のタイフォフーン、キム・フーンとが面接。応募者には、黒板に文字を書かせたり、なにやら活発な質問をしていました。外では、神妙に自分の番を待つ応募者たちが身を寄せあっている中、古参のチュンバーンも呼出し役をかっていました。

そのうちに、新しい保育者候補11名が選出されました。選出理由として「第三国へ定住希望を出していない人」を優先したとのことで、前回の選出のときは応募者が3日間、子どもたちと接する様子を観察し、先輩の保母たちが審査して決めました。今回はそれに比べると少し事務的な感じがしました。最初から私たちボランティアは選考に加わらず、カンボジアの人たちの計画で進められました。今後もこの調子で行なわれていくだろうと安心しつつ見守っていきたいと思いました。

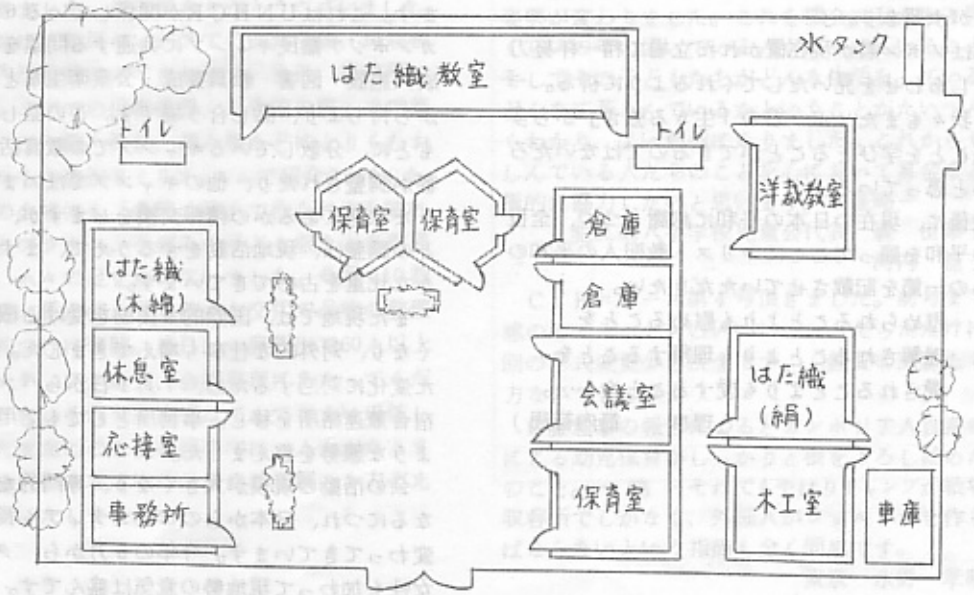
明日はいよいよ子どもたちと一緒に保育室で実践を始めます。

昨日のにぎやかさに比べると、とても静かな第2日目。午前中に保育について簡単な説明を受け、午後には保育の手ほどきが始まりました。保育室が広すぎるといった印象を受けるほど、こちらに女性たちが、あちらに小さく男性たちがそれぞれかたまって席に着きました。さっそくタイフォフーンが、ぶ厚い書類を片手に話を始めました。みなとても真剣なまなざしで講師を見つめていました。午後、11人のホヤホヤ先生は、子どもたちの中へ。初めは周りから保母や子どもたちを眺めていましたが、少しずつその雰囲気に溶けこんでいきました。日本でも同じですが、慣れないと初めは、ひとつひとつ手とり足とり子どもの世話をやいてしまいます。新米の保母さんたちは、一度子どものそばについたら離れられないというように一緒に遊んでいました。

ホヤホヤ先生の影響でしょうか、先輩の保母たちが急に積極的に子どもたちの中に入るようになりました。こうして先輩、後輩がたがいに刺激しあって一人前の保育者として育っていくことでしょう。

＜立石、長峰の報告より＞

「希望の家」見取図



頑張るソボン君、新たなる出発

日本に定住を希望し、大和定住促進センターで日本語の研修を終えたカンボジア難民のひとり、コン・ソボンさんが、成田ビューホテルに就職しました。ソボンさんが同ホテルで働くまでのいきさつと、新しい環境にあって、周囲からどのように受け入れられているかをご紹介します。

☆　　☆

神奈川県大和市にあるアジア福祉教育財団難民事業本部、大和定住促進センター（内藤健三所長）を難民の雇用の件で訪れたのは、56年6月も暑い日であった。

このセンターに入所してくるのは、現地の難民キャンプで日本定住を希望しているカンボジア、ベトナム、ラオスの3ケ国の人たちである。常時100名前後の難民が滞在できるようになっており、同センターでは、日本に定住できるよう生活指導をし、次々に社会へ送り出すという重要な仕事を担っている。

数日後、内藤所長から推選を受け就職が決定したのはコン・ソボン君（KONG・SOVONG カンボジア国ブィレイウェーン出身、1957年9月8日生、24才、男、戦禍で家族と離別、難民キャンプを経て現在にいたる）である。

梅雨もあけた7月20日就職先のビューホテルの独身寮に入寮。翌日よりフロント課ベルボーイ係として勤務、以来元気に働いている。上司の指導票には次のように記されている。「非常に明るい性格、向学、向上心強し（特に日本語）。業務適性、優。日本の生活習慣、行事への積極的参加をうながす要あり。」

私はソボン君が現在置かれた立場で精一杯努力し、しあわせを見いだしてくれるように祈る。一方、我々もまたソボン君の「生きる強さ」から多くのことを学びとることができるのではないだろうかと思っている。

最後に、現在の日本の平和に感謝しつつ、全世界の平和を願ってここにキリスト教聖人の平和のための一節を記載させていただきたい。

慰められることよりも慰めることを
理解されることよりも理解することを
愛されることよりも愛することを……。

（理事　　節内祥周）

キャンプから

会員のみなさまの応援と、東京にある事務局での繁雑な仕事を片づけてくださるボランティア、資金集めのボランティアの方々に支えられ、現地での活動も軌道にのってきました。最近のタイでの活動のようす、現地派遣ボランティアの役割などまとめてみました。

カオイダンを本拠にしている幼い難民を考える会の保育を中心にした地域教育活動も、カンボジアの人たちの手で、ますます順調に運んでいます。二カ所にわかれている保育センター「希望の家」には、保母・保父をはじめ、58人もの人たちが働いています。保育センターに通ってくる3歳から5歳の子どもたちは、10月末現在で448人、母親学級に出席する人の数は、織物11人、洋裁150人、手芸40人の計201人。保育センターには早朝から夕方まで人の姿が絶えません。

幼い難民を考える会では、この他にも、クメール語の絵本や童話を復刻したり、「希望の家」の職員だった絵本作家がキャンプで描いた詩集や、孤児となった少年の物語なども出版して、各キャンプの子どもたちに配ってきました。また、この秋、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）との契約によって、新たに11冊のクメール語の絵本、読みものを復刻することになりました。現在、バンコクで印刷されているこれらの本は、年内には、カンボジア難民キャンプにある学校や図書館などに配られる予定です。

バンコクでは、教育活動にたずさわっている各ボランティア団体が集まり、月例教育会議があります。これはUNHCRが関係している6カ所のカンボジア難民キャンプに共通する問題を、教育・成人施設・図書・教員養成・公衆衛生などの分野から持ちより、話し合う場です。この話し合いをもとに、分散しているキャンプでの教育活動の内容が調整されたり、他のキャンプではいまどのような状態にあるかの情報交換をしますが、各団体との調整は、現地活動をするうえで、ますます大きな比重を占めてきています。

また現地では、国際的な援助を受ける機会も多くなり、対外的な仕事も増えてきました。こうした変化に対応するため、7月1日からバンコクの宿舎兼連絡所を移し、事務所としても活用できるような態勢を整えました。

会の活動の規模が大きくなり、専門的な内容になるにつれ、日本からのボランティアも長期型に変わってきています。今年の5月から、タイ人の女性も加わって現地勢の意気は盛んです。

ＣＹＲの動き

タイ

9／ 8　洋裁教室の第3期の授業が始まる
生徒は午前・午後各30名ずつ計60名
4ケ月で洋裁の基礎的技術を修得する予定。

14　ＩＲＣが運営する新しい保育施設へ養成されたばかりの保母さん10名を派遣。（ＩＲＣ：International Rescue Commitee）

22　第6期の保母さん11名の養成始まる
養成期間は6週間の予定

10／10　「育児の手引き」40,000部完成
家庭での子どもの健全な発達を促し、成長を見守っていく父親母親のための手引き。

14～15　「育児の手引き」をタイ難民キャンプ（サケオ・バナッニコム・カンプット・マイルート）の各家庭に配布できるように担当団体へ渡す。

10／31現在現地活動員　5名

日本

9／20　現地活動に参加した人たち（延べ24名のうち7名）が集まり難民キャンプやお互いの近況について語り合う。

26　成田ビューホテルディナーショーの会場にて写真を展示する。

10／ 1～15　横浜ＹＷＣＡにてＣＹＲ写真展
約50点のパネル「希望の家」の子どもたちの作った粘土細工や絵を展示。

7　横浜ＹＷＣＡの福祉講座のひとつとして、難民キャンプの状況について話す。

13　「保育の手引き」2,000部印刷にかかる。

18　第4回バザー　聖心インターナショナルスクール駐車場にて行なわれる。

10/23～11/6　さゆり幼稚園にて写真を展示する。

秋のバザー　家族そろってボランティア

秋晴れの10月18日の日曜日、会の広報と活動資金集めを目的として、第4回バザーがＣＹＲ事務所隣の聖心インターナショナルスクール駐車場で開かれました。会の内外から衣類、日用雑貨、手芸品、お菓子などたくさんの品物が寄せられ、みなさまのご協力のおかげで、891,911円の純益を得ることができました。ご支援ありがとうございました。この収益は、難民キャンプでの保育活動、母親教育、国内活動費にあてられます。当日、事務所では、キャンプでの保育風景、「希望の家」の増築の様子、はた織、洋裁、編み物などにとりくむお母さんたちの姿が8ミリフィルムで紹介されました。バザーの会場でも「希望の家」で作られた手織布、刺繍入りブラウス、手編みの子ども服など多数展示され、人々の足を止めていました。今回も10数人のバザー係が何カ月も前から交代で品物の整理に、値札つけに奮闘。当日は一家総出で60人以上のボランティアが販売、会場整理にあたってくださいました。それでも売場はてんてこまいの忙しさ。まだまだこのような行事では、人手がたりません。会員のみなさまの一層のご理解とお力ぞえをお願いいたします。

ひろば

このたびは、困っている子どもたちがかいた絵や写真をお送りくださってどうもありがとうございました。－中略－

毎年、「募金をしてほしいといわれたから募金する」というようなことをしてきた人、「募金などしたくない」というような人がたくさんいたこの学校でしたが、絵や写真のおかげで募金をする姿勢が変わりました。これを機会に私たちと同じくらいの年の困っている人がたくさんいること、そしてその子どもたちがどんな生活をしているか、どんなに苦しんでいるかということがたいへんよくわかり、よい勉強になりました。これからも苦しんでいる人たちのことを心において募金など積極的に協力したいと思います。－後略－

狛江第八小学校児童会代表　森　世津子
河内　桂子

ＣＹＲニュース第4号頂きました。前号まで好感のもてるセンスのいいニュースだっただけに今回の形式変更少し残念です。（経費の関係なら仕方ないでしょうが）

佐藤理事の報告によるとカンボジア人自身の手による幼児保育がしっかりと根を下ろし始めたとのこと。－略－それでもやはりキャンプが戦場の収容所でしかなく、外国人がシェルターを作らねばならないという指摘も全く同感です。

東京　水野　孝昭

「幼い難民を考える会」当面の活動方針

第1回理事会（1981. 1. 15）で決まった当面の活動方針は、次のとおりです。（一部省略）

Ⅰ　タイ国難民キャンプ内の活動

1.カオイダン・キャンプ内に、他の国際組織の協力も得ながら、さらに数ケ所、「保育施設」をつくる。

2.カオイダン以外の、タイ国内各キャンプにも「保育施設」を開くよう努力する。

3.「希望の家」を、カンボジア人保育者養成のための研修センターとし、「会」の現地派遣グループは、アドバイザーとして、その運営維持に努力する。

4.現地活動継続のため、現在の規模の派遣グループ（4～5名）の常駐を確保する。

Ⅱ　国内での現地支援活動

1.現地活動の成果とその意義のPR。

（CYRニュースとミニ・ニュースの発行報道機関の利用、現地写真などの展示、他の難民救援組織との交流）

2.活動資金の継続的確保。

（賛助会員制による、定期的収入源の確保一般募金の継続、会費納入の励行）

3.事務局の整備・強化。

（常勤事務局員の確保）

4.会員の参加しやすい行事の企画と実行。

（現地報告会、バザー、勉強会＝クメール語、難民問題の歴史と現状、カンボジア情勢など＝、日本定住難民との交歓会）

― 会計報告 ―

（1981年8月1日～9月30日）

	項目		収入	支出	残高
国内	会費	前月より繰越	601,807		
		会費（含支援金）	205,224		
		賛助会費	42,500		
		その他	133,000		
		事務所経費		514,870	
		計	982,531	514,870	467,661
	寄付・募金	前月より繰越	5,671,591		
		寄付・募金	1,523,170		
		バザー他	278,610		
		現地へ送金	0		
		Ⅰ国内活動費		250,890	
		Ⅱ現地施設運営費		29,000	
		Ⅲ現地活動費		483,280	
		Ⅳ現地派遣活動費		32,238	
		計	7,473,371	795,408	6,677,963
現地	前月より繰越		434,038.12		
	国内から送金		0		
	補助金		684,994.75		
	寄付		0		
	その他		10,476.26		
	Ⅰ施設運営費			484,551.25	
	Ⅱ活動費			62,868.20	
	Ⅲ派遣活動費			50,176.70	
	計		1,129,509.13	597,596.15	531,912.98

＜単位・国内―円、現地―バーツ＞

※バザー他の収支は国内寄付・募金に含まれる。

寄付者

（8月）

菅沼ケイ、古屋寿子、佐々木次郎、本間トシユキ、近藤すみ子、新井利夫、田島敏子、麻生和子、関口文子、椿本由里絵、日本キリスト教団堅田教会、増川智恵子、平節美、青木秀光

（9月）

飯尾美園、青木秀光、五月会宗教グループ、貴島益子、160人母のコンサート実行委員会、品川私立幼稚園母の会、田島敏子、谷本透、石山民子、カトリック蒲田教会、無記名1、高輪スーパーブリンスデリカ、五反田東急ホワール、ワゴンドール、成田ビューホテルの募金箱にご寄付くださった方々。（敬称略）

会費納入と寄付のおねがい

会費納入会員は現在250名。事務局は火の車です。現地活動を来年も続けるには、まだまだ資金不足です。みなさまのご支援をお待ちしています。

なお、郵便料金の値上りと事務局の人手不足とから、銀行振込、郵便振替のご送金は、勝手ながら振込業をもって領収書とかえさせていただきます。ご了承ください。

お詫びと訂正　ニュース第4号4ページ、会計報告期間が（1981年4月1日～7月30日）とあるのは、（1981年4月1日～7月31日）の誤りでした。訂正します。

編集担当　秋沢・川畑・関口・平山・森定